

2016-04-21「ヨーロッパ社会」講義メモ

先週アンケート回答の一部紹介

感想のひとつ…たぶん何人かの人を感じたであろう感想・・・「受講生との問答がもっとあった方が学習意欲がわく・・・」

1. 難民問題に強く広い関心

スウェーデンでの研修・・・難民家族と同じホテル・・・難民の統合・教育問題
なぜドイツに難民が押し寄せるか？・・・歴史から理解する必要

それとの対比で、ヨーロッパ諸国の難民受け入れの態度の違い・・・その歴史的背景
現在のヨーロッパへの難民流入との関連で、「中東の歴史への関心」・・・OK、重要

2. 「世界史を選ばなかった・・・」、講義で言及された「ヴェルサイユ条約などの単語名は覚えているが、当時の情勢など細かい部分はほぼ記憶が喪失・・・」、「世界史の知識が少ないので、初めて耳にするものばかり・・・」、「世界史を高校の時に学んでいなかったため、1914～45年の歴史についてとても学びたいと思う・・・」、「世界史を勉強していなかったので歴史的な認識は豊かではないので、少し不安」

(・・・だからこそ学ぶ！！講義を聴く意味がある。講義に関心を持ったことを調べる意義がある。)

「戦後は重要なのに高校までの授業ではあまり教わらない・・・この講義をきっかけに自ら問題を発見し学ぶことが出来るようになれば・・・」

3. 「軍縮」(逆の軍拡)問題に関心

スイスの中立の歴史的背景・・・スウェーデンも中立の長い歴史
スイスの徴兵制(国民皆兵制)の歴史

4. 講義の流れ・・・「国ごとに区切らず、流れで見ることができる」、「考え方や見方が新しくなる」

現在に近づけば近づくほど、ヨーロッパ諸国相互間の結びつきは強く、統合が進展
ある意味で、第二次大戦後は、常に、ヨーロッパ各国の問題をその当時のヨーロッパ全体との相互関係のなかで見えていく必要がある・・・ケルブレ『冷戦と福祉国家—ヨーロッパ 1945～89年』の基本的スタンス。このケルブレの本は、10巻本のヨーロッパの歴史叢書の第9巻だが、他の巻も、この基本的スタンス。

19世紀から20世紀前半のイギリス、フランス、ドイツ、イタリアなどといった国民国家の枠組みで、それぞれの国の内部に目を向ける見方の、相対化ないし脱却。

5. ユンカース・・・宮崎駿アニメ『風立ちぬ』

6. 旧ソ連圏の諸問題に関心

7. 以前の受講生のレポート・・・「難しそう」・・・しかし、3か月後にはそう感じなくなるかも。